（別紙4）　　平成　26　年度　　評価確定日　平成27年2月25日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会　ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホーム　こすもす　（ユニット名　1F・2F　）
所在地	福岡県久留米市上津町字下千束1217番地1
自己評価作成日	平成27年　1月　8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広々とした敷地内は散歩や日向ぼっこを日課としており、季節の変化を楽しみ語らいの場となっています。又、近くには成田山観音像を望むこともできて、毎日拝まれる姿もあります。ホーム横は近隣住民の散歩コースとなっていて、ホーム畑の野菜作りの助言や種、苗を頂くこともあり、交流を継続しています。地域の方には、運営推進会議の参加、夏祭り、JA祭り、たけのこ掘りの行事参加を通してご理解をいただき、交流をしています。
理念である、ご本人の一言に耳を傾け想いを知り、一日一日を大切に居心地良く暮らせることを揚げ、ご家族の皆様にもご協力をいただき日々のケアに努めているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

医療法人を母体としている。2階建て2ユニットの当事業所は、閑静な住宅街に位置しており、広大な敷地にはたくさんの野菜や花畑があり、敷地内で十分な散歩も楽しめる広さを有している。リビングからは目前に成田山の慈母観音が見えて、利用者の癒される空間になっている。また、利用者のどの居室からも耳納山や地域が広く見渡せる景観で快適である。ホーム長をはじめ職員の優しく穏やかな人柄が職員全体の雰囲気となっており、職員は利用者を家族同様に一体となり支えたり共に過ごしており、利用者の伸び伸びと自由に過ごせる環境に繋がっている。理念である「利用者の力と家族の力、地域の力」とが協力してホームを支えている。地域との親交もあり、地域に根差したグループホームとしてますますの発展が期待できるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日職員は、理念を唱和し意識を強め実践に取り組んでいる。 利用者にも「自立・安心・安全」のめあてがあり、日々の生活の中に取り入れ実現に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を全職員で考え、「ご本人の力とご家族の力に地域の力をかりて心豊かな暮らしができるように支援します」と掲げ、日々の申し送り時等で理念を振り返り実践につなげている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より行事の誘いがあり、季節ごとに参加をしている。夏祭りや秋祭り、たけのこ掘り、どんと焼き、JA祭りなど入居者の方と共に参加し、地域との交流を図っている。	地域の夏祭りやイベントに招待され、利用者も参加してビンゴゲームを楽しんだり、法人主催の行事では、地域の方々を招待したりして、法人全体の事業所の利用者と共に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に見えた時など、介護保険の仕組みなどの説明を行っている。 市のクリーンパートナーに入り、周辺の清掃を行っている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の民生委員、近隣住民、介護保険課、包括支援センターを交え状況報告や研修報告を行い、ご意見ご提案を頂き、入居者ご本人の希望が実現できるようにサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。利用者の日々の過ごし方やホームの取り組みを報告して、参加者の意見や提案を聞きサービスの向上に活かしている。地域の方より、周辺の街灯を増やしてほしい、出入り口にカーブミラーを取り付けてほしい等の意見があり、早速設置し意見を活かしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題が生じた場合、市担当者に相談し助言をもらい解決している。運営推進会議に出席して頂き、又、介護相談員の方の意見も参考にサービス改善に努めている。	制度に関する相談をしたり、市の担当者が変わった時にホームへの訪問があったり、生活保護受給者の入居依頼を受ける等、常に協力関係を築くように取り組んでいる。また、月に1回、介護相談員の訪問を受けている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加をし、申し送り時や回覧で全職員が理解しその意味や意識をもち、防止に努めている。	市主催の研修会に管理者2名が参加しており、他の職員には伝達研修を行っている。勤務の都合等で参加できなかった職員には、報告書や資料等で学習したり、毎月のミーティング時でも周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会等を行い、身体的だけではなく精神的虐待についても意識付けや職員同士注意しあっている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加後勉強会を行い、制度について理解を深めている。 玄関にパンフレット資料を置き、相談時には説明できるようにしているが、制度を必要としている人は現在はいない。	管理者が外部研修に参加し、他の職員に伝達研修を行っている。家族や訪問者には市のパンフレットを自由に持ち帰ってもらっている。現在、制度の活用が必要な利用者はいない。全ての職員が制度について理解するまでに至っていない。	必要な利用者や家族にいつでも助言できるよう、職員の知識をさらに深めるための研修のあり方について、今一度検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ説明を行い、理解納得をして頂いている。 疑問等についても十分に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の定期的な訪問や運営推進委員会などでご本人やご家族が外部の方に表せる機会を設けている。玄関にはご意見箱を設置し対応している。	ホームで行う季節の花見や敬老会行事に家族に参加してもらい、意見や要望が言える機会づくりにしている。また、家族同士で何でも話せるように職員は席を外すなどの配慮もしている。訪問が少ない家族には電話で日々の状況報告時に要望等を聞いており、利用負担金は振り込みにせずホームに持参してもらい意見等を聞く機会としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや申し送り時に意見や要望を出してもらっている。 日頃より意見が言いやすい雰囲気を作り、スタッフ間でのコミュニケーションを図るようにしている。	代表者は常に職員の意見や提案を聞き入れており、広い敷地内の除草を職員ではなく業者に委託したり、年に1回はワックスがけも業者に委託している。また、職員の制服（エプロンからユニホームへ）の購入等、職員の提案や要望を聞き入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を聞き、働きやすい環境に努めている。採用後に初任者研修を受ける人は優遇制度があり、各自が向上心を持っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢を理由に排除していない。職員はレクリエーションや行事などに得意分野を活かし勤務している。	採用について特に制限はない。職員はそれぞれに持てる能力を発揮し、料理が得意な職員は利用者と一緒におやつを作ったり、折り紙が得意な職員は利用者と一緒に楽しんだりしながら働いている。資格取得にあたっても勤務日の調整や参考書の提供もあり、職員の働く意欲になっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重する意識を持ち、「明るく思いやりのある心」で接している。ミーティング・申し送り時等、日頃より話し合いをし入居者の想いを傾聴し共感、受容に努めている。	法人が行っている人権研修に管理者をはじめ参加できる職員が受講し、参加できなかった職員には伝達研修をしている。また、久留米市からDVDを借りて、全職員が学び、利用に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やグループホーム部会の勉強会などに積極的に参加をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと合同研修を行い、意見交換や勉強する機会を作り、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。 入居者同士も行き来し、交流の場を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との交流を大切に行い、じっくり向き合いながら不安や訴えを受け止め、信頼関係を作る様に努めている。 入居前に職員全員で統一したケアが出来る様にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、キーパーソンやご家族から、不安や要望についての情報収集を行いニーズの把握に努め、ケアプランに反映できるように関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長、管理者、職員が十分に話し合い、ご本人御家族のニーズの検討を行い、ご本人の要望に沿ったサービスの提供ができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力を発揮して頂けるよう場面場面で役割を持って頂いている。 人生の大先輩である皆様を常に敬い、喜びや楽しみを一緒に共感できるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話で、その都度生活の様子を報告している。又、ご家族の協力を頂き外出の機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の情報をいただき、協力を得て自宅に帰ったり、子供の家に行ったりしている。訪問される知人、友人もあり、馴染みの人との関わりが継続できるように支援している。	利用者の馴染みの美容室へ送迎したり、行きつけのスーパーへ買い物に同行している。琴の教授だった利用者の要望でお弟子さんの発表会へ行けるように手配をしたり、遠方へのお墓参りが実現できるように家族に同行をお願いしたりしている。友人や知人の訪問時には、お茶等で歓迎し居心地良く過ごせるように配慮し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に家事をしたり、散歩に出るなど入居者同士の関係が円滑になるように働きかけを行っている。「出来る事・やりたい事」を一緒に行い、孤立を作らないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は会いに行き、御本人、御家族と情報を交換している。又、電話で様子を伺い現状を把握している。 亡くなられた時はお参りし、関係を大切にできるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの動作・仕草や日々の会話の中から本人の意向や希望を感じ取り把握している。少しでも変化を感じた際は、その都度職員全員で話し合い検討したりして想いをくみとっている。ご家族からも積極的に話を伺っている。	利用開始前の独居生活が長い場合は、食事や入浴など自分のペースがあるので、無理強いすることなく信頼関係を築くことを一番に考え、ゆっくり接する中で希望や意向の把握に努めるようにしている。職員は笑顔を絶やさず話しかけやすい雰囲気づくりを心掛け、聞き取りをして本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に御本人、御家族から今までの暮らし、様子を聴きこれまでの生活習慣に近い環境で安心して暮らして頂けるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活習慣、過ごし方、心身状況を把握し出来る事、分かる事をミーティング、記録等で情報を共有し維持できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の思い、希望を聞き、主治医の情報も取り入れ職員で検討しモニタリングを行い、計画を作成している。	利用開始時に「私の姿と支援ノート」を作成し、担当者が思いや希望を書き出し介護計画に活かしている。看護師や医師に相談しながら、全員でケアプラン作りをしている。3ヶ月に1回、ご家族に説明し了解を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化や気づきは記録し、毎日の申し送り時に情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりのその時の状況、御家族の意向を聞き、柔軟な対応が出来る様に取り組んでいる。本人や家族の希望があれば、医師や歯科医などの受診・往診を行えるよう支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加しており、地域の行事やボランティア活動（クリーンパートナー）など行う中で、本人の力を発揮できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時は家族か職員が同行している。協力医による歯科、眼科、心療内科の往診もある。	かかりつけ医については、利用開始時に本人・家族に意向を聞いている。緊急時は、かかりつけ医に往診してもらったり、法人の医師に連絡して指示をもらうなど個別に対応している。認知症が進行したときはご家族と相談し、心療内科を受診している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制（看護師週2回1時間づつ）をとっており、日々の健康状態を報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を通して家族との話し合いを行い、安心して入院できるようにし、退院後は入居できるように対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人や家族の意向を踏まえて、事業所ができる最大のケアについて、説明を行っている。利用者の身体状況に応じて、家族に意向の再確認を行い、主治医と相談し支援に取り組んでいる。	入院していた利用者が退院する時には、本人、家族、職員、主治医と今後の対応を話し合っている。看取りの場合、家族の宿泊希望時は寝具や食事の提供を可能としている。事業所は開放的な構造なので、他の利用者への心理的影響がないように細かな対応を検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアル、連絡網を置き、訓練や勉強会を行っている。 AEDの設置もしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回消防署の協力を依頼し避難訓練、通報訓練、消火器の使い方等の訓練を入居者と共に行い、近隣住民の方も参加をして頂いている。非常食、備品も備え、市の防災ラジオを設置している。	火災・水害・地震などを想定した避難訓練は日中と夜間を想定し、利用者や近隣の住民も参加して行っている。2階からの階段は幅が広く、段差も低く降りやすいので職員と一緒に避難しており安全が保たれている。出火場所によっての避難場所もマニュアル化しており職員も周知している。スプリンクラーを設置している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について入職時に説明し、契約書の提出をしている。入居者の方の尊厳を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけ、ミーティングや申し送り時に意識を高めるようにしている。	利用者への声かけについては職員間でお互いに気をつけるようにしている。慣れてくると気づかないことがあるため、「あなたならどう思うか」と考えてもらうためのアンケート調査を実施しており、自らの対応の振り返りをして、日々の意識の向上につなげている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いを聞き、自分で選択できるように支援している。何気ない会話も大切にし、自分で決めれるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身状態を配慮し、本人の気持ちに添えるように個別性のある対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む美容室等、希望がある時は家族や職員が付き添っている。着替えはできるだけ本人に選んで頂いている。化粧品も希望により購入している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑でとれた野菜を収穫したり、下ごしらえを一緒にしている。テーブル拭きや後片付け等、役割を持って頂き出来る事をしている。	職員が三食とも調理して、利用者と同じものを食べている。3時のおやつも利用者と一緒にできる限り手作りで提供しており喜ばれている。近くの米屋から精米したてのお米を配達してもらっており、食べることを大切にしていることがうかがえる。食後は、すぐに片付けず、ゆっくり会話を楽しみ、ゆったりした時間を過ごしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューにより食事の提供を行っている。又、医師の指示により制限のある方は食事形態、メニューを変更している。病院の栄養士の協力により定期的に栄養指導を受けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を一人ひとりの能力状態により、ケア介助を行っている。歯科往診も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェック表を使い、排泄パターンを把握し声かけ誘導を行ない、失禁を減らせるよう支援している。一人ひとりの自尊心に配慮し、さりげなくトイレ誘導を行っている。	利用者のプライドを傷つけないよう耳元で声をかけ、トイレ誘導をしている。夜間はポータブルトイレを使用している方も、日中はトイレでの排泄誘導をしている。日中はショーツを着用して、夜間は安眠確保のために紙おむつを使用する等、一人ずつの心身の状況に応じてきめ細かく対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時適宜の水分補給を心がけ、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、自然排便につなげている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	準備は毎日しており、その都度個々の体調に合わせ入浴支援を行っている。入浴できない場合は清拭・着替えを行い清潔保持に努めている。季節感を楽しめる入浴をしている。(ゆず湯、バラ湯、ハーブ湯)	入浴を嫌がる場合は、無理にすすめることなく、時間をずらしたり、誘う職員を変えたりしながら支援している。良い香りのするゆずや庭に生えているハーブを入れるなど楽しく入浴してもらう工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるように、日中に生活リズムを整えるよう支援し、寝具の調節や室温を考慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、いつでも職員が確認できるようにしている。 体調に変化があれば看護師、医師に相談している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前からの楽しみ事、趣味、嗜好が入居後途切れることのない様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば買い物に出かけたり、近所の菓子店に行き、お茶を飲んだりスーパー、道の駅に行っている。ご家族にも協力をお願いし外出している。	近くにスーパーや菓子店があり、散歩コースになっている。広い園内には畑があり、ベンチも置いているので、暖かい日は日光浴をしている。「いつも拝んでいる後ろ姿の観音様のお顔を見たい」と言われ、ドライブがてらお参りに行くこともあり、できる限りの要望に応じている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望でお金を持っている人もいる。お預かりしている人は、個別の台帳を作成し家族に定期的に報告している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にそって好きな時に連絡が取れるようにしている。又、手紙、絵手紙、年賀状を出したりと支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品や写真等を飾っている。 リビングには足踏みミシンや和風人形等、入居者にとって懐かしく感じられる物を置いている。キッチンからは調理中のにおい、音があり生活感を感じることができる。	職員は共用スペースを1～2時間かけて酸性水で拭き掃除をしている。殺菌効果のあるオゾン発生機や加湿器を設置しており、定期的に換気を行うなど衛生面に配慮している。利用者と職員の手作りで季節の花などを作成し、リビングに飾っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファや畳間があり、テレビを視聴したりと自分の好きなように思い思いに過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物を持参してもらうように説明している。思い出の人形やぬいぐるみを置いて安心して暮らせる工夫をしている。	事業所周囲に高い建物がないため、どの居室からも景観が一望でき快適である。ベッド、タンス、机は準備されているが、馴染みの家具等の持ち込みも可能である。机の上に家族が持ち込んだ人形やパズル・絵画などが飾られ居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来る事や一人ひとりのADLの状態を把握し、環境整備を行い自立した生活が送れるように工夫している。		